

未成年尿路結石患者の保護者の皆様へ

2023年6月27日

泌尿器科

現在、泌尿器科では、尿路結石に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、2018年4月1日から2022年6月30日に当院で尿路結石と診断された方の診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

「尿路結石患者の臨床データ登録研究」

2. 研究の意義・目的

本研究は尿路結石症患者に対する治療結果の向上と再発の低減を目的としています。臨床データを比較分析し、尿路結石症患者の予後を決定する要素を解明できれば、治療効果を高めることが期待できるだけでなく既存の治療方法に対する評価を行うことができると考えます。

本研究の目的は、患者背景と結石の特徴と各術式の破碎効率について本邦における現状を把握することです。

3. 研究の方法

尿路結石症に対する治療を受けた患者の臨床データの比較と解析を行います。具体的には、臨床カルテから得られた情報を用いて、統計学的方法により各種尿路結石症手術の治療効果などを比較分析します。具体的には患者さんの尿路結石の発症様式や治療方法、治療効果に加えて身体所見、血液検査結果、尿検査結果、画像検査結果等を情報収集し、解析します。

尿路結石は50歳代に好発すると考えられておりますが、比較的若い年齢でも発症する患者さんがいることが知られています。発症に遺伝的な素因が関与する可能性があり、再発のリスクもあります。頻度の高い壮年期の尿路結石の種類（シュウ酸カルシウム結石や尿酸結石など）と同様の治療、経過観察を実施した際の治療効果やその後の治療成績等に関する解析を実施するべく、未成年の方の臨床データも収集し解析を行います。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報の取り扱いについては、共同研究機関において氏名等を削除して特定の個人が容易に識別できないように加工し、研究用 ID を付与します。研究用 ID と氏名を一致させるための対応表は各機関ごとに作成し、それぞれの研究機関内で保管され、機関外には持ち出されません。また、研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院泌尿器科研究室の鍵のかかる保管庫で保管します。

5. 外部への試料・情報の提供

各機関で氏名等の特定の個人を識別できる符号を削除されたデータは研究代表機関の千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学教室へ送られ、解析された後、共同機関内で共有されます。

データベース（DDBJ [DNA または RNA に登録された核酸データベース]、NCBI [国立バイオエンジニアリング情報センター] など）にデータを提供し、研究者間で共有します。

6. 研究組織

	職	氏名	役割
千葉大学大学院医学研究院泌尿器科	教授	市川 智彦	研究全般の策定・実施・報告上の調整、および施設間の調整。
千葉大学大学院医学研究院泌尿器科	准教授	坂本 信一	本臨床研究の管理と遂行の総責任
千葉大学大学院医学研究院泌尿器科	講師	今村 有佑	医療データの採取。
千葉大学大学院医学研究院泌尿器科	助教	五島 悠介	データの収集、解析と統計処理
千葉大学大学院医学研究院泌尿器科	医員	柴田 裕貴	データの収集、解析と統計処理
千葉大学大学院医学研究院泌尿器科	院生	ZHAO XUE	データの解析と統計処理
船橋クリニック 泌尿器科	院長	野積 和義	データの収集

7. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院泌尿器科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院泌尿器科

医師 坂本 信一

043 (222) 7171 内線 72347

研究代表機関 : 千葉大学病院泌尿器科

研究代表者 : 市川 智彦

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。